

またもやBP テキサスシティ製油所の脱硫装置で爆発・火災事故発生

7月28日(木)夜に、BP テキサスシティ製油所の水素化脱硫装置 (Resid Hydrotreating Unit) で爆発・火災事故が発生しました。事故は、定常運転中に予兆もなく突然発生したもので、爆発後直ちに残さ油、重質油等の流れを停止し、装置内の残留オイルが尽きるまで安全に燃やし、8時間後に鎮火しました。幸い負傷者はありませんでした。会社側の発表によれば、2月に行われた補修工事の時に、本来クロム合金鋼を使用しなければならないコンプレッサーと熱交換器の間の配管部分に、炭素鋼管が取り付けられてしまったために、エルボー部に内部割れが発生し、割れた鋼管から水素を主とする高温(260℃以上)・高圧(21 MPa)のガスが噴出・着火したものです。現在、類似設備の配管総点検と工事ミスの原因調査が行われています。

同製油所では、3月23日(木)にも、15名が死亡、100名以上が負傷する爆発・火災事故(本シリーズのNo.5及びNo.6として、4月12日及び7月13日に掲載)が起きたばかりで、事故の頻発は同社の安全文化に根ざしているとの指摘もあります。

テキサスシティでは、BPの爆発事故の数分前に、ダウ・ケミカルでイソプロパノール装置の漏えい事故が起きています。

日本でも、毎年のように製油所の脱硫装置で火災事故が発生しています。当協会では、その事故原因の分析結果と安全技術の提言を、機関誌 Safety & Tomorrow のNo.89(2003)5に掲載しました。フル生産下で、事故の発生しやすい状況にあると思いますが、好況の時ほど、事故が発生した時の損害は甚大となります。関係者の方々には、今一度本誌をお読みの上、安全の確認を行って下さい。

BPの一連の事故に関しては、地元の”The Galveston County Daily News”(<http://galvestondailynews.com/>)が熱心に取材を行っており、「テキサスシティの悲劇(Tragedy in Texas City)」と題したスペシャル・レポートを組んでいますので、詳細及び最新の情報は、レポート(<http://www.galvnews.com/bpexplosion.lasso>)を見て下さい。